

令和 8 年 2 月 20 日

降雪・凍害を受けた柑橘類（レモン等中晩柑）の緊急栽培管理

JA かながわ西湘

本資料は、皆様が樹体の回復作業に集中できるよう、要点をまとめた緊急の栽培管理です。焦らず、一つ一つの作業を着実に進めていきましょう。

また、品種によっては、凍害にあうと外皮と内皮に含まれる苦味成分が溶出し果肉に浸透し苦味がでます。一般的に、被害発生から 25 日程度経過すると苦味は減少することが報告されています。

ス上上がりについては、凍結からス上上がり現象の完成までには 20~25 日を要し、それまでの間は、凍結果か正常果かの判断は困難です。30 日以上経過してから果実を切って調べてください。 (出典：農業技術体系、大分県「凍った果実の事後対策」等)

1. 樹勢回復に向けた管理計画

樹勢の早期回復と、来年度以降の生産基盤を守るため、以下の手順で管理作業を進めてください。

【ステップ 1：現状把握と応急処置（被害発生直後～3月下旬）】

最重要 絶対に慌てて剪定しないでください。

目的：樹の自己回復力を見極める。

作業：被害を受けた葉や枝を観察し、状況を見守ります。この時点での剪定は、かえって回復を妨げる危険があります。

【ステップ 2：葉面散布による樹勢回復（3月～5月）】

攻めの養生 根の機能が低下している状態を補い、新梢の発生を促す。

資材：**尿素 500～1000 倍**、液肥など。

月 1 回程度を目安に、樹の様子を見ながら継続。

※尿素を散布する際は、一度お湯で溶かしてから水で希釀すると、溶け残りがなく均一な散布液を作れます。

【ステップ3：枯死枝の剪定（切り戻し）（4月上旬 以降）】

目的：枯死部を取り除き、病気の発生源になるのを防ぐ。

健全な部分へ養分を集中させる。

作業：新芽が吹き、生存部（緑色）と枯死部（茶色）がはっきり区別できるようになつたら開始します。生存部（緑色）と枯死部（茶色）の境より10cmくらい基部に戻ったところで切り戻しする。太い枝（直径2cm以上が目安）を切った後は、病原菌の侵入を防ぐため、必ず癒合剤（バッチャレートやトップジンMペースト）を塗布します。

枯死や落葉が著しい場合、主枝等を日焼けから守るため、炭酸カルシウム剤（ホワイトンパウダー等）を塗布しましょう。

【ステップ4：病害虫対策と春肥・夏肥（剪定後～）】

作業：カミキリムシ等の飛来に注意し、幹や枝を重点的に観察します。回復状況を見ながら春肥（根が傷んでいる恐れがあるので配合肥料等の緩効性肥料）、夏肥を施用します。

JAかながわ西湘ホームページ・メールマガジン登録フォーム

営農やイベント情報を発信しています。ぜひ、ご登録ください。

(<https://plus.combz.jp/connectFromMail/regist/ctuh7457>)



本件に対する問い合わせ先

JA かながわ西湘

開成営農経済センター 83-5165	湯河原営農経済センター 62-6149
久野営農経済センター 35-8010	中井支店 81-2776
成田営農経済センター 38-0131	山北支店 75-1311

営農部営農指導課 Tel 46-6950